

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 ぼのぼの		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日		～ 令和8年1月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びの中の療育を基本に、子どもひとり一人に対して「子どもの興味にとことん付き合う」姿勢を大切にしている。	子どもの興味や関心を引き出せるような関わりを持ち、子どもが主体的に取り組むことで達成感や自己肯定感を得ることができるよう目標設定や支援を行っている。 定期的に研修会に参加したり、勉強会を実施したりしている。	毎日のミーティングでの振り返りを大切にして、子ども一人ひとりの成長に合わせて、関わりや支援の見直しを日々行っていく。 今後も職員の学習の場を継続して設け、職員一人ひとりのスキルの向上を目指し、支援や療育の質の向上に繋げていく。
2	広い建物を生かして、目的に合わせて部屋を区切り、子どもたちが分かりやすく、使いやすい環境を整えることができる。静かな空間が必要な時に人と離れた環境が提供できる。	保育園の跡地を利用しており、部屋数やスペースを確保することができている。	活動の幅を広げたり、児童のニーズに合わせて構造化したりする等、スペースを有効に活用していく。 児童が清潔な環境で快適に過ごすことができるよう環境美化に努める。
3	法人内の同じグループに、生活介護事業所、短期入所支援事業所、就労継続B型事業所、グループホームなどがあり、連携や情報共有が行いやすく、将来そういったサービスの利用を考えられている方に対して切れ目のない支援を行うことができる。	ご家族の方で、グループ内の事業所について知りたいと言われる方に対して情報提供を行ったり、利用の際に連携を図ったりしている。	ぼのぼのを利用する中で子どもが積み上げてきたものを他事業所を利用する際にも生かすことがように、連携や情報共有を今後も丁寧に行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定員20名の多機能事業所として地域の利用ニーズに対応しきれていない(調整して日によっては利用をお断りしなければならない)時がある。	放課後等デイサービス・児童発達支援の利用ニーズの増加。専門的な資格をもつ職員の確保。	地域のニーズや実情に合わせて事業を展開していけるように検討を重ねていく。当面は調整を行いながら可能な限り利用のニーズに対応していく。
2	関係機関の連携や家族支援に関して、様々なニーズに対応しきれていない部分がある。	関係機関の連携や家族支援に関して、知識や経験が十分な職員が少ない。	OJTや研修等を活用して職員のスキル向上を目指していき、複数の職員で連携しながら家族支援等が十分に行えるようにしていく。
3	建物の老朽化に伴い、修繕が必要な部分が増えてきている。	今年度はエアコンの取り換え、給湯器の取り換え、トイレの修理、内装の部分的な塗装等を行っており、現在は手洗い場の増設を進めている。	今後も必要に応じて修繕等を行いながら、利用者が安心して快適に施設を利用できるよう環境を整えていく。